

インドール酪酸液剤 オキシベロン液剤	取扱メーカー： バイエル、琉産 原体メーカー： バイエル
成分： インドール酪酸〔オーキシシン剤〕……………0.40%	性状： 淡黄褐色透明液体 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

- 一度に多量のさし穂を処理することができる。
- 発根を早め、根数を増加させることにより、良い苗が数多く得られる。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 浸漬はさし穂基部2～3cmとする。
- 作物の種類により、処理方法、処理濃度及び処理時間が異なるので注意する。
- 処理時間を守り、過剰な処理は行わない。
- 水あげの必要な樹種については、長時間浸漬が便利である。
- 短時間浸漬処理は、作業性に優れた方法である。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 他の農薬との混用はさける。
- さし穂は健全な親株からよく充実した枝を選び、葉付のさし穂は、さし穂の基部1／3にある葉を除いて使用する。
- さし木後は十分に灌水する。さし床の温度（20～25℃が最適）、湿度は発根に大きく影響するので適切な管理が必要である。特にミストを併用する場合は過湿にならないよう注意する。
- 系統や品種により効果が認められない場合があるので注意する。
- チューリップに使用する場合は、第一葉の長さが9～10cmの頃に時期を失しないように、所定液量を葉間に滴下する。また、高濃度で使用する、奇型花の発生や生育異常を生じるおそれがあるので所定濃度を厳守する。
- 共通注意事項8、適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】……………



【適用と使用方法】

作物名		使用目的	使用時期	希釈倍数 (水 1 ℓ 当り使用量)	使用方法	本剤及びインドール酪酸を含む農薬の総使用回数
茶		さし木の 発根促進 及び 発生根数 の増加	—	100～200 倍 (10～5 ℓ)	3 時間さし穂全体浸漬	1 回
桑	古条			40～80 倍 (25～12.5 ℓ)	24 時間さし穂基部浸漬	
				1.3～4 倍 (3300～330 ℓ)	3 秒さし穂基部浸漬	
	新梢			800 倍 (1.25 ℓ)	24 時間さし穂基部浸漬	
				2～4 倍 (1000～330 ℓ)	3 秒さし穂基部浸漬	
すぎ、ひのき	40 倍 (25 ℓ)			24 時間さし穂基部浸漬		
いぬつげ	6 月～7 月 (夏さし)		40～80 倍 (25～12.5 ℓ)	3 時間さし穂基部浸漬		
			原液	10 秒さし穂基部浸漬		
			40 倍 (25 ℓ)	3 時間さし穂基部浸漬		
きんぼうじゅ			400 倍 (2.5 ℓ)	24 時間さし穂基部浸漬		
どうだんつつじ			原液	10 秒さし穂基部浸漬		
			40 倍 (25 ℓ)	3 時間さし穂基部浸漬		
			2 倍 (1000 ℓ)	20 秒さし穂基部浸漬		
かいづかいぶぎ	3 月～5 月 (春さし)		20～40 倍 (50～25 ℓ)	6～24 時間さし穂基部浸漬		
			40～80 倍 (25～12.5 ℓ)	3 時間さし穂基部浸漬		
ヒマラヤシダー	200～400 倍 (5～2.5 ℓ)		16～24 時間さし穂基部浸漬			
カーネーション	—		2 倍 (1000 ℓ)	5 秒さし穂基部浸漬 又は、さし穂 100 本当り 10 ℓ をさし穂基部に散布		
			500～1000 倍 (2～1 ℓ)	3 時間さし穂基部浸漬		
2 倍 (1000 ℓ)			10 秒さし穂基部浸漬			
きく			100～200 倍 (10～5 ℓ)	5～10 秒さし穂全体浸漬		
チューリップ	花茎基部 の伸長		第 1 葉の長さ が 9～10 cm の時期	20～40 倍 (50～25 ℓ)	1 株当り 1 ℓ を葉間 に滴下	
りんご (台木)	さし木の 発根促進	さし木直前	4 倍 (250 ℓ)	さし穂基部瞬間～15 秒 浸漬		
樹木類 (すぎ、ひのき、 いぬつげ、 かいづかいぶぎ、 きんぼうじゅ、 つつじ類、 どうだんつつじ、 ヒマラヤシダー を除く)	さし木の 発根促進 及び 発生根数 の増加	—	40 倍 (25 ℓ)	6～24 時間さし穂基部浸漬		
2 倍 (1000 ℓ)			5～10 秒さし穂基部浸漬			
花き類・観葉植物 (カーネーション、 きく及び チューリップ を除く)			200～400 倍 (5～2.5 ℓ)	12～24 時間さし穂基部浸漬		